



駐日ポーランド共和国大使館



ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO

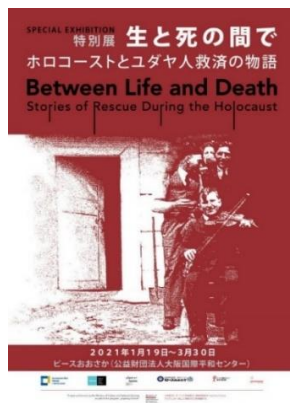


2021 年 1 月 26 日

駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

ニュースリリース

国際ホロコースト記念日（ホロコースト犠牲者を記念する国際デー）



ナチス・ドイツの強制絶滅収容所（1940 年-1945 年）アウシュヴィッツ・ビルケナウ解放の記念日である 1 月 27 日には、毎年、2005 年に国際連合が定めた国際ホロコースト記念日（ホロコースト犠牲者を記念する国際デー）が催されます。

今年で解放から 76 年目にあたるアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制絶滅収容所跡は、永遠に、ホロコーストについての記憶の最も重要な象徴の一つでありつづけるでしょう。全世界に散らばっている数千の記憶の場所と同様、これもまた犠牲者の記憶に敬意を捧げる場所です。

2015 年から東京で NPO 法人ホロコースト教育センター（Kokoro）が駐日ポーランド共和国大使館、イスラエル大使館、ドイツ大使館と共催している、ホロコースト国際デーは、今年、新型コロナウイルス蔓延によりオンライン形式で行われます（1 月 27 日 19:30-21:30）

<https://www.npokokoro.com/20210127>。ヨハネスブルクホロコーストジェノサイド館長タリ・ネイツ氏の講演とポーランド、イスラエル、ドイツ大使のビデオメッセージがそのプログラムです。

最初の囚人移送がアウシュヴィッツに到着したのは、1940 年 6 月 14 日です。ポーランド人の政治犯たちでしたが、彼らがこの収容所に送られることに決まったのは、ポーランド人が大量に逮捕され、結果としてドイツによって占領されたポーランドに、囚人が収容しきれなくなったためでした。

アウシュヴィッツは 2 年後、ナチス・ドイツによって占領された地域に居住するユダヤ人を殲滅するナチス計画である「ユダヤ人問題の最終的解決」実現のための主要な拠点のひとつになりました。アウシュヴィッツ・ビルケナウ収容所では 100-150 万人が虐殺されましたが、そのうち約 100 万人はユダヤ人でした。彼らの多くはポーランド共和国の国民でした。アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所は、占領されたポーランド地域に赤軍が侵攻した後の 1945 年 1 月 27 日に、解放されました。第二次世界大戦中に、600 万人のユダヤ人が生命を落したと推定されています。

ポーランド共和国亡命政府と数千人の我らが同胞たちは、第二次世界大戦の全期間を通じて、ユダヤ人救済に尽力しました。ドイツによって占領されたポーランドでは、そうした行為に対して死刑が課せられたということを記憶しておく必要があります。

ポーランド人はヤド・ヴァシェム記念館が認定する諸国民の中の正義の人の称号を受けたうち、最多数のグループを構成します——2020 年 1 月 1 日付で 7122 人です。

駐日ポーランド共和国センターとポーランド広報文化センターは近年、ドイツによるポーランド占領期間中に、ユダヤ人に救済の手を差し伸べたポーランド人を記憶に留める目的で、一連の行事を実施してきました。例えば——

2014 年にはヤン・カルスキ記念年の一環として、シンポジウムと展示「ヤン・カルスキ——自由の人」（ポーランド史博物館制作）【青山学院大学】とヤン・カルスキについてのコミックス刊行。2015 年にはシンポジウムとアウシュヴィッツの元囚人ミエチスワフ・コシチエルニャクの絵画展【早稲田大学——NPO 法人ホロコースト教育センターと共催】。2016 年にはヴィトルト・ピレツキ大尉生誕 115 周年記念シンポジウム【青山学院大学】。2018 年には日本語冊子「ジェゴター——ユダヤ人救済委員会」（ポーランド国民記録院制作）の刊行とセンドレル年を機にイレナ・センドレルについてのシンポジウム【青山学院大学アスタジオー——NPO 法人フォーラム・ポーランドと共催】。

2019 年にはポーランド映画祭の一環として、1942-43 年にワドシ・グループのポーランド人外交官がユダヤ人に差し伸べた援助の手についての記録映画『パラグアイへのパスポート』（ポーランド国民記録院制作）上映。2020 年には展示『タデウシュ・ロメル駐日ポーランド共和国大使と極東におけるユダヤ人被難民』（ヤギェロン大学のオルガ・バルバシェヴィチ博士制作）、同題の日本語冊子刊行、『第二共和政ポーランドの外交官たち』シリーズより T・ロメル大使についての記録映画上映【杉原千畝 Sempo Muzeum】、上記『第二次共和制ポーランドの外交官たち——タデウシュ・ロメル』【改修後開館された人道の港敦賀ムゼウムの常設展示の一部として上映】。

2021 年 1 月 19 日～3 月 30 日には展示『生と死の間で——ホロコーストとユダヤ人救済の物語』（記憶と連帯のヨーロッパ・ネットワーク制作）【ピースおおさか（大阪国際平和センター）】。

近年日本で出版されたホロコースト関連書の一冊に、W・ピレツキ大尉についての杉浦茂樹訳『アウシュヴィッツ潜入記 囚人者番号 4859』（2020 年 8 月、みすず書房）があります。

文責：ポーランド広報文化センター

駐日ポーランド共和国大使館

<https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada>

tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl

Twitter: @PLinTokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/Ambasada-RP-w-Tokio>

ポーランド広報文化センター

<https://instytutpolski.pl/tokyo/>

tokio@instytutpolski.pl

Twitter: @PLInst_Tokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/InstytutPolskiTokio/>